

脊椎固定術(Spinal fusion)

・脊椎固定術(脊椎除圧固定術)は、一般的には脊椎変性すべり症や脊柱管狭窄症等の脊椎変性疾患の患者に対して、主に神経症状、腰痛、および脊椎の変形や不安定性を有する場合に行われる術式である。脊椎固定術では脊椎スクリューやロッド等を用いて複数の椎体を固定し、椎体の骨癒合を図る(下図)。

・脊椎固定術において骨強度が低下した症例では、脊椎の骨癒合を促進するため、人工骨や骨セメントを使用して椎体の固定力を高めることが一般的である。骨セメントに関しては、脊椎スクリューと併用での使用は保険適用外であったが、現在はセメント注入型の脊椎スクリューと併用する場合には保険適用とされている。

・ Expedium Verse Fenestrated Screw (脊椎スクリュー(可動型・横穴付き))は、シャフト部に骨セメントを椎体内に注入するための横穴を有している脊椎スクリューである。Expedium Verse Fenestrated Screwは骨粗鬆症等により骨強度が低下した症例を対象とすることとされており、そのような症例には骨セメントと併せて用いられる。骨セメントの使用により、骨セメントを使用しない場合と比較して術後の脊椎スクリューの緩みの発生が少なくなることや、骨癒合率が改善することが報告されている。

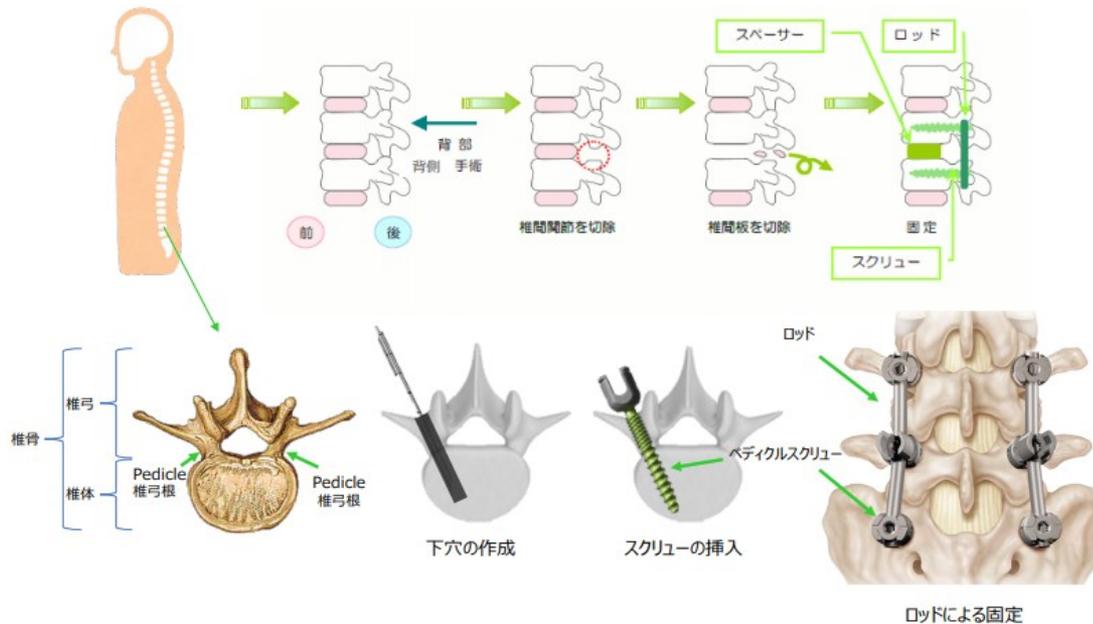


図:脊椎固定術のイメージ図 (企業より提供)

表: 脊椎固定術の主な適応疾患

疾患名
脊柱管狭窄症
腰椎すべり症
腰椎分離すべり症
脊柱変形(脊椎側彎症等)
椎間板症
椎間孔狭窄

参考: 上田ら. Jpn J Neurosurg 28:260-270, 2019